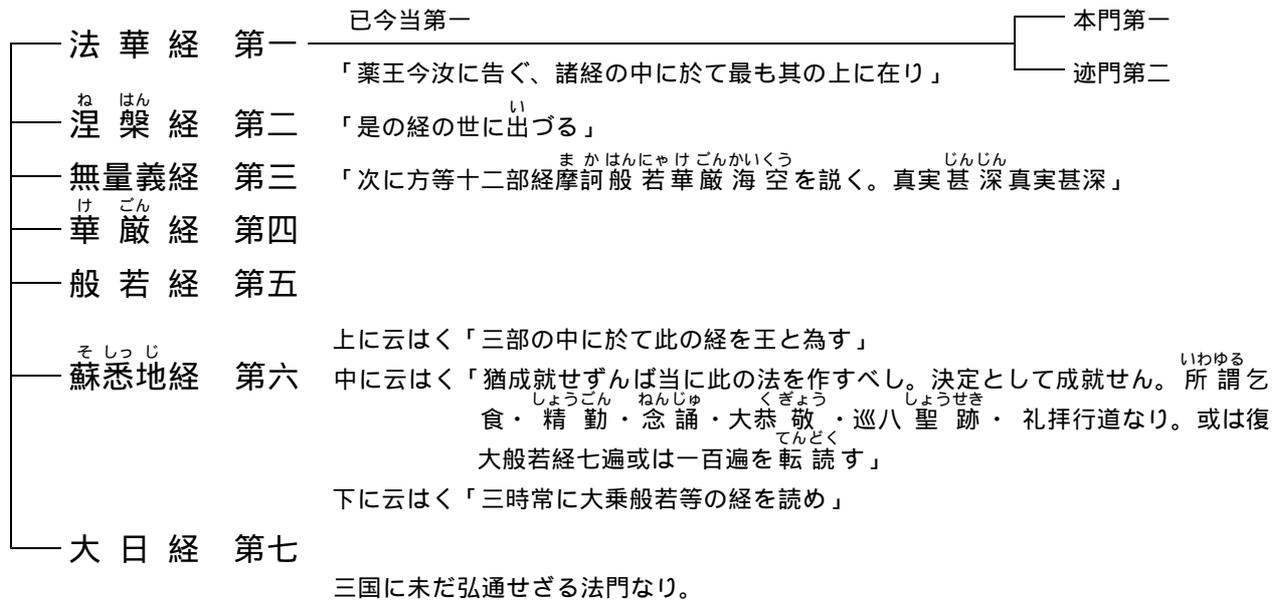
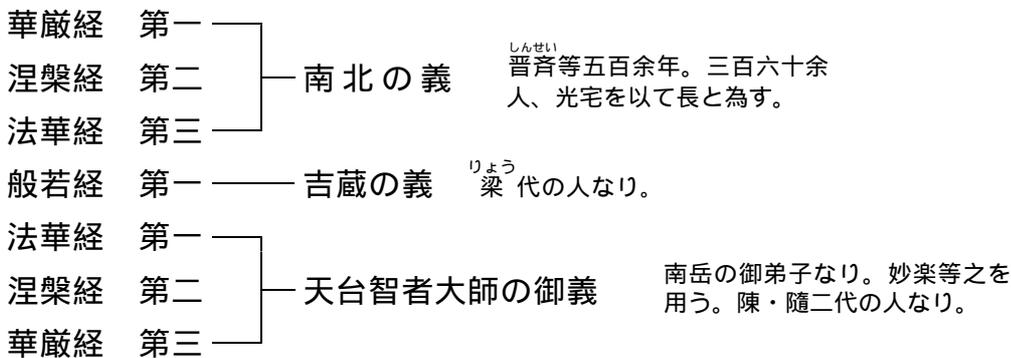


- 一 法華・大日二經の七重勝劣の事
- 一 戸那・扶桑の人師一代を判ずる事
- 一 鎮護国家の三部の事
- 一 内裏に三つの宝有り、内典の三部に当たる事
- 一 天台宗に帰伏する人々の四句の事
- 一 今經の位を人に配する事
- 一 三塔の事
- 一 日本国仏神の座席の事

法華・大日の二經の七重勝劣の事



戸那・扶桑の人師一代の聖教を判ずる事



深密經	第一	玄奘 <small>げんじょう</small> の義	唐の始め太宗 <small>たいそう</small> の御宇の人なり。
法華經	第二		
般若經	第三		
華嚴經	第一	法蔵・澄観 <small>ちょうかん</small> 等の義	唐の半ば則天皇后の御宇の人なり。
法華經	第二		
涅槃經	第三		
大日經	第一	善無畏・不空等の義	唐の末玄宗 <small>げんそう</small> の御宇の人なり。
法華經	第二		
諸經	第三		
法華經	第一	伝教の御義	人王五十代桓武 <small>かんむ</small> の御宇及び平城・嵯峨 <small>へいぜい さ</small> の御代の人。比叡山延暦 <small>ひえいざんえんりやくじ</small> 寺なり。
涅槃經	第二		
諸經	第三		
大日經	第一	弘法の義	人王五十二代嵯峨 <small>じゆんな</small> ・淳和二代の人。東寺・高野等なり。
華嚴經	第二		
法華經	第三		
大日經	第一	慈覚の義	善無畏を以て師と為す。仁明 <small>にんみょう</small> ・文徳 <small>もんたく</small> ・清和 <small>せいわ</small> の三代。叡山講堂総持院なり。智証之に同じ。園城寺なり。
法華經	第二		
諸經	第三		

鎮護ちんご国家の三部の事

法華經	不空三蔵	大曆に法華寺に之を置く。大曆二年護摩寺を改め法華寺を立つ。中央に法華經、脇土に両部の大日なり。
密嚴經		
仁王經		
法華經	聖徳太子	人王三十四代推古天皇の御宇、四天王寺に之を置く。摂津国難波郡仏法最初の寺なり。
浄名經		
勝鬘經	伝教大師	人王五十代桓武天皇の御宇、比叡山延暦寺止観院に之を置く。年分得度者 <small>ひ</small> <ul style="list-style-type: none"> 一人遮那業<small>しゃなごう</small> 一人止観業
法華經		
金光明經		
仁王經	慈覚大師	人王五十四代仁明天皇の御宇、比叡山東塔 <small>そうじ</small> の西総持院に之を置かる。御本尊大日如来金蘇 <small>こんそ</small> の二疏十四卷安置せらる。
大日經		
金剛頂經		
蘇悉地經		

内裏に三つの宝有り、内典の三部に当たる事

- 神 璽 国の手験なり
- 宝 剣 国敵を禦ぐ財なり。平家の乱の時海に入りて見えず
- 内侍所 天照太神影を浮かべ給ふ神鏡と云ふ。左馬頭頼茂に打たれて焼失す。

天台宗に帰伏する人々に四句有り

- 一に身心俱に移る — 三論の嘉祥大師
華嚴の澄観法師
- 二に心移りて身移らず — 真言の善無畏・不空
華嚴の法蔵
法相の慈恩
- 三に身移りて心移らず — 慈覚大師
智証大師
- 四に身心俱に移らず — 弘法大師

今経の位を人に配する事

- 鎌倉殿 征夷將軍 — 無量義経
- 撰 政 — 涅槃経
- 院 — 迹門十四品
- 天 子 — 本門十四品

三塔の事

- 中 堂 — 伝教大師御建立
止観・遮那の二業を置く。本尊薬師如来なり。
延暦年中御建立、王城の丑寅に当たる。
桓武天皇の御崇重。天子本命の道場と云ふ。
- 止観院 —
本院
天竺には靈鷲山と云ひ震旦には天台山と云ひ扶桑には比叡山と云ふ。
三国伝灯の仏法此に極まれり。
- 講 堂 — 慈覚大師の建立
総持院
鎮護国家の道場と云ふ。本尊大日如来なり。承和年中の建立。
止観院の西に真言三部を置く。是を東塔と云ふなり。
第三の座主なり。
- 西 塔
釈迦堂 — 円澄の建立
宝 幢 院
伝教の御弟子なり。
- 横 川
観音堂 — 慈覚の建立
楞 嚴 院

日本国仏神の座の事

問ふ、吾が朝には何れの仏を以て一の座と為し、何れの法を以て一の座と為し、何れの僧を以て一の座と為すや。答ふ、観世音菩薩を以て一の座と為し、真言の法を以て一の座と為し、東寺の僧を以て一の座と為すなり。

問ふ、日本には人王三十代に仏法渡り始めて後は山寺種々なりと雖も、延暦寺を以て天子本命の道場と定め、鎮護国家の道場と定む。然して日本最初の本尊釈迦を一の座と為す。然らずんば延暦寺の薬師を以て一の座と為すか。又代々の帝王起請を書きて山の弟子とならんと定め給ふ。故に法華経を以て法の一の座と為し延暦寺の僧を以て一の座と為すべし。何ぞ仏を本尊とせず、菩薩を以て諸仏の一の座と為るや。答ふ、尤も然るべしと雖も、慈覚の御時叡山は真言になる、東寺は弘法の真言を建立す。故に共に真言師なり。共に真言師なるが故に東寺を本として真言を崇む。真言を崇むる故に観音を以て本尊とす。真言には菩薩をば仏にまされりと談ずるなり。故に内裏に毎年正月八日、内道場の法行なはる。東寺の一の長者を召して行なはる。若し一の長者暇有らざれば、二の長者行なふべし。三までは及ばすべからず云云。故に仏には観音、法には真言、僧には東寺の法師なり。比叡山をば鬼門の方とて之を下す。譬へば武士の如しと云ひて崇めざるなり。故に日本国は亡国とならんとするなり。

問ふ、神の次第如何。答ふ、天照太神を一の座と為し、八幡大菩薩を第二の座と為す。是より已下の神は三千二百三十二社なり。